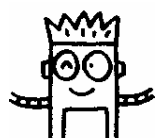


おおしおへいはちろう

## 大塩平八郎は、どんな人だったの



幕府や大商人が、ききんで困っている人々を救おう  
としないことにおこって、反乱を起こした学者だよ。

大塩平八郎は、1793年に生まれました。幼いころに両親が亡くなったため、大阪町奉行の与力(今の警察にあたる役職の一つ)だったおじいさんの後つぎになり、13、14歳ごろから奉行所につとめに出て、与力にまで出世しました。与力としての功績をあげる一方で、陽明学を勉強し、自宅に「洗心洞」という塾を開いて、奉行所の人、医者、豊かな農民の子などに、陽明学を教えました。1830年、高井山城守が町奉行をやめると、平八郎もつとめをやめました。

## 「天保の大ききん」が起こった

1830年代に入ると、気候の悪い年が続き、1833年の秋には、「天保の大ききん」が起こって、たくさんの人々がうえ死にしました。平八郎は、東町奉行の跡部良弼や、三井・鴻池らの大商人に、米が高くて買えない人々を救ってくれるように頼みましたが、みんなことわられました。

## 反乱を起こしたが、1日で終わった

普通の方法では問題は解決しない、と考えた平八郎は、農民や貧しい人々によびかけて、1837年2月に反乱を起こしました。大商人の家に放火しながら、大砲を引いて、大阪の町中を行進しましたが、寄せ集めの軍(300~400人)は弱く、幕府側との戦いに敗れて、夕方までに反乱は終わりました。平八郎と、養子の格之助は、3月にかくれ家を取り囲まれて、自殺しました。

この後、越後(新潟県)・摂津(大阪府・兵庫県)など各地で、平八郎から影響を受けたと思われる反乱が起こり、幕府の政治のしくみが、すでにだめになっていることが、全国に知れわたりました。

**ことばの説明** 陽明学 儒学一派で、明(中国)の王守仁の思想を学ぶ学問。人間は良知(りょうち。善悪を判断する力)を、行動によって高めるべきだとした。